

事 項	りんご新品種と主要品種の交雑和合性		
ね ら い	<p>りんご品種相互の交雑和合性を交配実験によって決定するためには多大な労力と年数を要してきた。</p> <p>DNAマーカーによって、りんご新品種と主要品種の自家不和合性遺伝子型を判定し、交雑和合性を明らかにしたので、マメコバチ利用園での授粉樹の選択及び人工授粉する際の花粉親の選択の参考に供する。</p>		
指 導 参 考 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1 DNAマーカーを利用して、主要品種及び新品種の自家不和合性遺伝子型を判定した。 2 判定した自家不和合性遺伝子型に基づいて、品種間の交雑和合性を推定した(表)。主要品種に関しては、これまでに交配によって得られた結果とほぼ一致した。 3 自家不和合性遺伝子型が同じ組み合わせは交雑不和合性で、授粉樹や人工授粉の花粉には使えない。 4 3倍体品種(ジョナゴールド、北斗、陸奥、ハックナイン、あおり9など)は自家不和合性遺伝子型に関係なく、花粉親として利用できない。 5 新品種導入の際には、表を参考にして交雑和合性の品種を選び、根植する授粉樹や人工授粉用の花粉親とする。 		
期待される効果	<ol style="list-style-type: none"> 1 交雑和合性の品種を、根植する授粉樹や人工授粉用の花粉親としての確に選ぶことによって、結実数が確保される。 2 今後、品種相互の交雑和合性は、交配による方法ではなく、自家不和合性遺伝子型を判定する事によって、迅速に推定することができる。 3 育種現場での交配親の選択に利用できる 		
利用上の注意事項	めしべ(結実させたい品種)と花粉(授粉樹)の組み合わせを逆にすると、交雑和合性の判定が異なる場合があるので、表を参照する際注意する。		
担 当	グリーンバイオセンター 遺伝子工学研究部 りんご試験場 育種部	対 象 地 域	県下全域
発 表 文 献 等	なし		

